

問1 航空写真などの上空からの視点で見ると、前方部が方形（四角形）、後方部が円形をしており、全体として巨大な鍵穴のような形状をしている日本独自の古墳の名称として適切なものはどれか。（2020年 佐賀公立入試 類似）

1. 前方後円墳 2. 円墳 3. 方墳 4. 八角墳

問2 5世紀ごろ、現在の大阪府や奈良県を中心とした勢力であるヤマト王権が、九州から関東地方に至る広い範囲に影響力を及ぼしていたことが、各地の出土品から判明しています。埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、当時のヤマト王権の首長を指すどのような称号が刻まれていましたか。（2015年 岡山公立入試 類似）

1. 大王 2. 執権 3. 天皇 4. 將軍

問3 大和政権が朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ人々を厚遇し、積極的に組織へ組み込んだ理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 新潟県公立入試 類似）

1. 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため 2. 狩猟採集中心の生活から、初めて稲作を中心とする社会へと移行させる必要があったため 3. 地方の豪族が持っていた鉄器の製造技術を独占し、天皇の権威を否定させるため 4. 遣唐使を派遣する代わりに、大陸の役人を招いて日本の政治制度をすべて中国風に改めるため

問4 4世紀から7世紀頃、多くの人々が大陸から日本列島へ移住した歴史的背景と、その後の影響についての説明として最も適切なものはどれですか。（2021年 島根公立入試 類似）

1. 朝鮮半島の動乱を逃れた人々や、大陸の先進技術を必要とした大和政権に招かれた人々が、漢字や仏教などを伝えた。 2. シルクロードを経由した東西貿易を活発にするため、唐の皇帝が日本の平安京へ大規模な商人の集団を派遣した。 3. モンゴル帝国の侵攻に対抗するため、日本列島から朝鮮半島へ軍事技術を持った集団が移住し、防御を固めた。 4. 律令制度を確立した日本が、地方の豪族を管理するために大陸から役人を大量に雇用し、全国各地に配置した。

問5 埼玉県にある稲荷山古墳から「ワカタケル大王」の名が刻まれた金錯銘鉄剣が出土した一方で、熊本県にある江田船山古墳からも同様に大王の名が記された鉄刀が見つかっています。これらの発見から推測される、5世紀後半における大和政権の状況として最も適切なものはどれですか。（2017年 大阪公立入試 類似）

1. 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。 2. 大和政権の本拠地が、近畿地方から関東地方へ移転した。 3. 九州地方と関東地方の豪族が連合して、大和政権に対抗していた。 4. 朝鮮半島から伝わった鉄器の製造技術が、関東地方でのみ独占されていた。

問6 5世紀後半、現在の埼玉県にある稲荷山古墳と熊本県にある江田船山古墳から、金象嵌（きんぞうがん）で文字が刻まれた鉄剣や鉄刀が出土しました。これらの出土品に共通して刻まれていた人物の名と、そこから推測される当時のヤマト政権（大和政権）の状況として適切なものはどれですか。（2020年 和歌山公立入試 類似）

1. ワカタケル大王の名が刻まれており、ヤマト政権の勢力が九州北部から関東地方まで及んでいたことがわかる。 2. 卑弥呼の名が刻まれており、邪馬台国の勢力が西日本から東日本一帯に広がっていたことがわかる。 3. 聖徳太子の名が刻まれており、天皇を中心とした中央集権体制が全国で完成していたことがわかる。 4. 中大兄皇子の名が刻まれており、律令に基づいた地方支配が関東や九州まで及んでいたことがわかる。

問7 4世紀から7世紀にかけて、近畿地方の有力な一族を中心として組織され、日本の大部分を統治した政治組織の仕組みについて述べたものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 茨城県公立入試 類似）

1. 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。 2. 漢の皇帝から授けられた金印を持つ王が、中国の王朝に対して朝貢を行うことで統治した。 3. 貴族が摂政や関白の職を独占し、天皇に代わって政治の実権を握る体制がとられた。 4. 地方の武士が幕府を開き、土地の支配権を保證することで全国の武士を統制した。

問8 中国の歴史書である『宋書』倭国伝には、5世紀に倭の五王が中国へ使者を送ったことが記されています。この「五王」が朝貢（皇帝への貢ぎ物）を行った相手である、当時の中国の勢力を何と呼びますか。（2024年 大阪公立入試 類似）

1. 南朝 2. 北朝 3. 隋 4. 唐

答え合わせ・解説

問1	答え 1 前方後円墳	3世紀後半から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力下にあった地域で築かれた日本独自の形式です。大阪府の大仙古墳（伝仁徳天皇陵）に代表されるように、大規模なものは当時の有力者の権力を象徴しています。
問2	答え 1 大王	5世紀後半のヤマト王権（大和朝廷）の首長は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀には、「ワカタケル大王」などの銘文が刻まれており、近畿地方を中心とするヤマト王権の支配が、既に関東から九州まで及んでいたことを示す重要な歴史的証拠となっています。
問3	答え 1 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため	大和政権は、渡来人が持つ先進的な技術（鉄器製作、灌漑などの土木、織物）や知識（漢字による記録、儒教、仏教）を独占・管理することで、他の有力豪族に対して優位に立とうとしました。これらの技術は、巨大古墳の造営や農地の拡大、組織的な統治に欠かせないものでした。
問4	答え 1 朝鮮半島の動乱を逃れた人々や、大陸の先進技術を必要とした大和政権に招かれた人々が、漢字や仏教などを伝えた。	当時の朝鮮半島は高句麗・百済・新羅が勢力を争う激動期にありました。戦乱を避ける目的や、高度な文化・技術を吸収したい大和政権の要請によって移住が促進され、伝えられた文化は後の飛鳥文化などの発展に大きく寄与しました。
問5	答え 1 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。	関東（埼玉県・稲荷山古墳）と九州（熊本県・江田船山古墳）という遠く離れた地域の双方から、大和政権の王であるワカタケル大王の名を記した遺物が見つかったことは、当時の政権の政治的影響力が日本列島の広範な地域に及んでいたことを証明する重要な歴史的事実です。
問6	答え 1 ワカタケル大王の名が刻まれており、ヤマト政権の勢力が九州北部から関東地方まで及んでいたことがわかる。	埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳という、遠く離れた二つの地域から同一の王である「ワカタケル大王（雄略天皇）」の名を記した文字資料が出土したことは、当時の歴史を知る上で極めて重要です。この事実は、5世紀後半にはヤマト政権の政治的な支配力が、九州北部から関東地方にまで及ぶ広大なものになっていたことを裏付けています。この大王は、中国の歴史書『宋書』倭国伝に登場する「倭の五王」の一人である「武」と同一人物であると考えられています。
問7	答え 1 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。	4世紀頃に近畿地方を拠点として成立した大和政権は、豪族と呼ばれる有力な一族が連合して形成された組織です。その中心には「大王（おおきみ）」と呼ばれる世襲の王が君臨し、有力な豪族たちは職務を分担して政権を支えました。この体制は、後の律令国家へと発展していく基礎となりました。
問8	答え 1 南朝	当時の中国は、南北に王朝が分かれて対立する「南北朝時代」にありました。倭の五王（讃・珍・済・興・武）は、そのうち南側の「宋」などの王朝、すなわち南朝に使者を送りました。北朝は主に華北を支配していた別の勢力であり、隋や唐はのちに中国を統一した、より新しい時代の王朝です。